



平成 20 年 5 月 1 日

各 位

会社名 株式会社ファルコバイオシステムズ
 京都市中京区河原町通二条上る清水町346番地
 代表者名 代表取締役社長 平崎 健治郎
 (コード番号：4671 東証・大証各第一部)
 問合せ先 専務取締役企画管理本部長 安田 忠史
 電話 (075) 257-8500

中間期及び通期業績予想(連結及び個別)の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、昨年11月2日の決算発表時に公表した平成20年9月期(平成19年9月21日～平成20年9月20日)の中間期及び通期業績予想(連結及び個別)を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 20 年 9 月期 連結業績予想及び個別業績予想数値の修正

(1) 中間期(平成 19 年 9 月 21 日～平成 20 年 3 月 20 日)

連 結

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想(A)	17,500	400	350	150	12円18銭
今回修正予想(B)	18,059	407	312	25	2円5銭
増減額(B-A)	559	7	△38	△125	—
増減率(%)	3.2	1.8	△10.9	△83.3	—
(ご参考)前期実績 (平成19年9月期中間)	16,932	653	621	328	26円94銭

個 別

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想(A)	10,900	100	100	10	0円81銭
今回修正予想(B)	11,219	20	△26	△99	△8円12銭
増減額(B-A)	319	△80	△126	△109	—
増減率(%)	2.9	△80.0	△126.0	△1,090.0	—
(ご参考)前期実績 (平成19年9月期中間)	10,203	333	450	261	21円41銭

(2) 中間業績予想修正の理由

臨床検査事業においては、新規顧客の獲得を図るとともに、受託単価の適正化・維持を進めることにより収益力の向上に努めてまいりました。また、調剤薬局事業においては既存店舗の収益拡大に加えて2店舗開局いたしました。その結果、売上高は連結、個別ともに前回予想を上回る見込みであります。一方、営業利益においては、新規事業であるIT事業の本格稼働に伴う費用計上が当初の予測を上回ったこと等を要因として個別の営業利益が前回予想を下回るものの、連結では調剤薬局事業において既存店舗の収益力の向上により前回予想を上回る見込みであります。

経常利益においては、株価下落に伴う投資事業組合に対する持分損失及び有価証券売却損の計上により、中間純利益においては上場株式の時価下落による投資有価証券評価損の計上、未利用の固定資産の減損処理等により連結、個別ともに前回の予想を下回る見込みであります。

(3) 通期（平成19年9月21日～平成20年9月20日）

連結

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	36,600	1,440	1,350	650	52円77銭
今回修正予想（B）	37,100	1,200	1,100	370	30円37銭
増減額（B－A）	500	△240	△250	△280	—
増減率（％）	1.4	△16.7	△18.5	△43.1	—
（ご参考）前期実績 （平成19年9月期）	35,092	1,432	1,340	709	57円87銭

個別

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	22,700	500	500	150	12円18銭
今回修正予想（B）	23,000	400	340	10	0円82銭
増減額（B－A）	300	△100	△160	△140	—
増減率（％）	1.3	△20.0	△32.0	△93.3	—
（ご参考）前期実績 （平成19年9月期）	21,848	690	798	431	35円24銭

(4) 通期業績予想修正の理由

連結、個別の売上高は、臨床検査事業、調剤薬局事業ともに中間期に引き続き前回の予想を上回る見込みであります。一方、営業利益、経常利益及び当期純利益については、中間期の状況に加えてIT事業の投資が引き続き見込まれること等により連結、個別ともに前回の予想を下回る見込みであります。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上